

北海道150年

～ 北海道における貿易の移り変わり～



その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.

はじめに

平成30(2018)年は、明治2(1869)年に蝦夷地が「北海道」と命名されてから150年目の節目となります(明治元年から起算して満150年となる「明治150年」)。

安政6(1859)年の箱館(函館)港開港以降、様々な国との貿易を行っています。北海道を取り巻いてきた大きな出来事や産業構造の変遷を経て、北海道における貿易がどのように変化しているのかを特集します。

【明治19年の函館港全景図(函館税関所蔵)】



・ 北海道の貿易150年の変遷

1 明治前期 【明治2(1869)年～同25(1892)年】

明治以前の北海道では、函館港のみが貿易港として開港しており、ロシア領海への出漁が対象となる漁業貿易が特色であったことから、輸出品は漁業関連物資や食料品、輸入品は漁獲した海産物類が主でした。

その後、明治に入り函館港は豊富な海産物を輸出するための基地として発展し、昆布や鮑(あわび)、煎海鼠(いりこ※)、鰯(するめ)等を中心に輸出されていました。

輸入については、主に函館に居留する外国人が使用するため、繊維製品や砂糖類等が輸入されていましたが、輸入額としては僅少なものでした。

また、明治7(1874)年頃からは肥料や火薬の原料として、北海道で豊富に採掘された硫黄が徐々に輸出され始め、同16(1883)年を境に輸出貿易を支える主要品目となりました。

※煎海鼠：ナマコの腸を取り除き、塩水で煮た後乾燥させたもの。



【函館税関初代庁舎(函館税関所蔵)】

2 明治後期 【明治26(1893)年～同44(1911)年】

明治32(1899)年に小樽港・室蘭港・釧路港が開港しました。小樽港は石炭や木材等林産物の輸出増加のため、室蘭港は石炭の輸出が増加したため、また、釧路港は木材のほか硫黄を輸出するためです。さらに、同43(1910)年に、根室港が水産物を輸入するため開港しました。

明治後期には石油がロシアから函館港に輸入されるようになり、主要輸入品となっていきます。

同27(1894)年の日清戦争後は、枕木や挽材(製材)、石炭の輸出増加を目的に、国策として内陸の奥深くまで開拓することとなったことから、道鉄や軌条等の鉄道資材※の輸入が増加していきます。

同37(1904)年の日露戦争を境に港別の特色が鮮明となり、函館港は海産物や硫黄、小樽・釧路港は木材、室蘭港は石炭、根室港は海産物と、輸出貨物の取扱いが棲み分けされていきます。

※道鉄：当時の汽車や貨車等、軌条：レール



【旧小樽税関支署庁舎(函館税関所蔵)】

3 大正時代 【大正元(1912)年～同14(1925)年】

大正時代に入ると、明治後期に北海道の輸出主要产品であった硫黄が全国シェア約50%を超えています。また、漁業貿易における輸出入実績も飛躍的に増加しました。朝鮮半島との貿易も盛んに行われ、ほとんどが鉄道枕木等の木材類の輸出でしたが、塩鮭鱒等も輸入されています。

その後、大正3(1914)年に勃発した第一次世界大戦の影響を受け、木材類の輸出が一時的に減少したものの、英国やフランス等への豆類やでん粉等農産物の輸出が大幅に増加しました。

明治末期から第一次世界大戦前後にかけて、北海道内の開拓が急激に加速するのに伴い人口も著しく増加し、輸送のため大量の鉄鋼材や軌条等が輸入されました。

北海道では、農業や漁業を土台に醸造業、製粉業、缶詰業等の食料品工業を始め軽工業が大きく成長しました。また、製缶用のブリキ※も多く輸入されています。

※すずをめっきした鋼板。常に水分と接触する部材に使用されるほか、明治初頭には「ブリキのおもちゃ」と呼ばれるロボットや乗物のような形に成形・塗装した玩具も作られていました。



【天然の硫黄(北海道弟子屈町)】

4 昭和前期 【昭和元(1926)年～同20(1945)年】

昭和11(1936)年に、留萌港が石炭の積出港として開港しました。

昭和に入り北洋漁業※1が旺盛を極め、缶詰業等食料品工業の更なる発展に伴い、鮭、鱒、かに等の缶詰類が多く輸出され、製缶用ブリキの輸入も激増しました。

輸出は、明治時代以降も変わらず昆布や鰯等の海産物が圧倒的な上位を占めていたほか、豆類（豌豆(えんどう)※2)は小樽港から英国等欧米向けに好調でした。

輸入は、缶詰業に用いられるブリキのほか、北海道の工業の発達に伴い製靴工場や製鉄所等が多数稼動したことにより、生ゴムや石炭、鉄鋼等の原材料や機械類等が増加しました。

同4(1929)年の世界経済の大不況(世界恐慌)や、同6(1931)年の円貨の4割暴落等の影響で貿易額が減少しました。

この後、貿易額は増加しましたが、同16(1941)年に太平洋戦争が開戦し、中国大陸等を中心とした貿易となったことから、貿易額は激減していきました。



【戦前の留萌税関支署庁舎(函館税関所蔵)】

※1太平洋北部やベーリング海・オホーツク海を漁場とし、船内に缶詰加工装置を持つ大型母船と数十隻の漁船などで構成される船団が行う漁業のこと。

※2えんどう豆。欧米では肉料理の添え物として好まれていたようです。

【一口メモ】

北海道の貿易を支えた「漁業貿易」(明治19年～昭和20年まで貿易統計に計上)

漁業貿易とは、日本の漁業者が沿海州やカムチャッカ等に出漁する事業を指します。一般的な貿易は日本と国・地域間との輸出入取引ですが、漁業貿易は漁業者による「漁獲への投資と回収」の意味合いがあり、貿易としての意義が異なるため、当時の貿易額には一般の貿易のほか「漁業貿易」として明治19(1886)年～昭和20(1945)年まで別個に計上されています。

漁業貿易の大半は海産物の輸出基地であった函館港で行われており、輸出にあたる「投資」は、米や菓子、調味料等の食料品、塩や漁網、缶詰用空缶といった漁業用品等の操業に必要な物資であり、輸入にあたる「回収」は帰港時に取り卸す採捕した海産物でした。明治から大正にかけては塩蔵の鮭鱒の輸入が主でしたが、昭和5(1930)年頃からは缶詰類が増え、同17(1942)年にはシェアが逆転することとなりました。



5 昭和中期 【昭和21(1946)年～同40(1965)年】

昭和23(1948)年に、稚内港が北洋漁業基地や石炭の積出港として開港しました。

太平洋戦争終結後は、連合軍(GHQ)からの援助食糧(米、小麦、とうもろこし等)や原油等の輸入が中心の貿易となり、輸出は欧州向けの製材、東南アジア向けの農水産物や船舶等の輸出が僅少ながありました。

同24(1949)年には360円/ドルの単一為替レートが設定されたほか、翌25(1950)年には援助物資以外(鉄鉱石、石炭等)の輸入が民間移行される等、貿易管理体制の緩和が進んでいきます。

朝鮮動乱が勃発した際には、米軍が使用する物資の輸出入が多くなりました。そのため、北海道では鉄鋼や農水産物、木材類の輸出が好調となったのを発端に鉄工業が大きく発展したため、工業原料となる鉄鉱石や石炭、原油、食料等の輸入が大幅に拡大しました。

同31(1956)年には、それまで常に北海道内貿易額のトップであった小樽港を抜き、室蘭港が鉄鋼や化学肥料の輸出増、工業原料や機械類の輸入増により貿易額が首位となりました。



【昭和29(1954)年の室蘭港】
(日鐵セメント株式會社から提供)

6 昭和後期 【昭和41(1966)年～同63(1988)年】

昭和41(1966)年に、札幌圏の流通拠点港湾として、日本初の大規模な堀込港湾である苫小牧港が開港しました。また、同55(1980)年には、網走港と紋別港が水産加工品や北洋材などを輸出入することができる本格的な商業港として開港しました。同62(1987)年には、輸出入貨物の種類変更に伴い、根室港から花咲港へと開港が移転しました。

さらに、同56(1981)年には多くの海外との国際旅客定期便就航や旅客の急増などに対応するため、千歳空港※が北海道内初の税関空港に指定されました。

高度経済成長とともに輸出は、鉄鋼や船舶、一般機械等の重化学工業製品が大きく伸び主要品となっています。輸入は、輸出される重化学工業製品の原材料となる原油や石油製品、鉄鉱石等が主要品となっています。

※航空需要拡大に対応するため、昭和63(1988)年に現在の新千歳空港が供用されました。

また、紙の用途が多様化するなど世界的に需要が増加したことから紙・板紙の輸出が大幅に増加し、国内の木材資源が不足したことからウッドチップも輸入されています。

同48(1973)年までの原油輸入単価は1キロリットルあたり4~6千円で推移していましたが、オイルショック※の翌49(1974)年には輸入単価が1万9千円超に達し、同56(1981)年~57(1982)年には5万円台まで高騰する等、輸入単価の高水準は同60(1985)年まで続いていました。

同48(1973)年に大型の石油精製工場と備蓄基地の操業が開始された苫小牧港が輸入額を大幅に拡大させ、原油が同49(1974)年以降、北海道における輸入品の首位を維持しています。同54(1979)年には同34(1959)年~同53(1978)年まで北海道の貿易額トップだった室蘭港を抜き、北海道最大の貿易額を誇る港となり、現在に至っております。

貿易関連以外の出来事として、同47(1972)年には札幌市で冬季オリンピックが開催され、千歳空港には世界各国の選手団等競技関係者が降り立ち、入出国手続きや貨物の輸出入等のため、大変な混雑となりました。



【札幌オリンピック選手団の入国風景】
(函館税関所蔵)

※昭和48(1973)年に産油国が原油生産の段階的削減等を行ったことにより、原油価格が高騰しました。日本では同47(1972)年からの列島改造ブームにより急速なインフレーション状態の中、相次ぐ便乗値上げ等も重なり、同49(1974)年には戦後初のマイナス成長となりました。

7 平成前期 【平成元(1989)年~同15(2003)年】

昭和61(1986)年に始まったバブル景気が追い風となり、平成6(1994)年に、港湾や工業用地が整備され企業立地が順調に進行した石狩湾新港が開港しました。同11(1999)年には、日本有数の食糧基地である十勝地方に位置する十勝港が開港しました。さらに、同6(1994)年には函館空港がロシアとの国際旅客定期便就航などに対応するため、北海道で2番目の税関空港に指定されました。

また、同6年から、苫小牧港、石狩湾新港、室蘭港等には現在の貿易の主流である海上コンテナ航路が順次開設されています。

輸出は、大手メーカーの自動車部品・造船・製紙工場が増産計画を打ち出したことにより、一般機械や自動車の部分品、船舶、紙・板紙等が主要品の上位を占めています。自動車産業のほか鉄鋼関連

も好況で、中でも北海道で生産される鉄鋼材は品質等に高い信頼性があり、受注契約が高水準で推移していたようです。

輸入については、原油・粗油、魚介類・同調製品、木材等主要品の上位はほぼ固定され、石炭や石油製品、ウッドチップも増加しました。

平成3(1991)年のソ連崩壊に伴いロシアとの貿易が活発となり、稚内港や小樽港を中心に、かに等の魚介類・同調製品の輸入が増加しました。これらの港では、かに等を卸した後、中古自動車や中古タイヤ等を大量に積み込みロシアへ輸出する光景が多く見られました。



【輸出される中古自動車(函館税関所蔵)】

8 現在まで 【平成16(2004)年～同29(2017)年】

平成18(2006)年に、旭川空港が韓国との国際旅客定期便就航などに対応するため、税関空港に指定されたことにより、北海道における貿易港は12港3空港※1となり現在に至ります。

輸出入の主要品は平成前期と変わらず、輸出では一般機械や鉄鋼、自動車の部分品、魚介類・同調製品等が主要品であり、輸入では、原油・粗油や魚介類・同調製品、石炭等が主要品となっていますが、ロシアからの水産物の輸入は減少傾向にあります。

同18年には輸出額は3,000億円、輸入額は1兆円を突破する等好調に推移していましたが、北海道のみならず世界の経済を揺るがす出来事が起こりました。同20(2008)年に起こった世界金融危機(リーマンショック※2)により翌21(2009)年の貿易額は大幅に減少しました。

翌23(2011)年の東日本大震災を境に輸出入の主要品に増減が見受けられています。

※1 函館港、小樽港、室蘭港、釧路港、留萌港、稚内港、苫小牧港、網走港、紋別港、花咲港、石狩湾新港、十勝港、新千歳空港、函館空港、旭川空港。

※2 平成19(2007)年、米国の投資銀行である「リーマンブラザーズ」の経営破綻を発端に、連鎖的な世界規模の金融危機が発生し、日本では日経平均株価の終値が1か月前の半分になる大暴落が起きました。

おわりに

その後も、輸出では自動車産業や鉱油業における変動のほか、鉱物性タール・粗製薬品、有機化合物等品目の変化があり、それらを生産するための原料として石油製品の輸入が増加する等、北海道の貿易は、150年の時を経て経済成長とともに大きく変化し続けています。

また、地球温暖化対策等の観点から、液化天然ガス(LNG)やソーラーパネル、風力発電機等の輸入が急増しています。

さらに、近年では北海道産の農水産品輸出を促進するなかで、ほたて、長いも、牛乳等品質の高い「北海道ブランド」が世界各地で好評です。

今後も、北海道を取り巻く世界の経済情勢や産業の変化・発展によって、北海道における輸出入品目がどのように変化していくのか注視していきます。



【上：ソーラーパネル（北斗市）】

【左：風力発電機（稚内市）】

<参考文献>

『函館税関沿革略史』『貿易年報』『外国貿易概況』『外国貿易年表』『外国貿易月表』（以上函館税関）
『新北海道史』『函館市史』『小樽市史』『新室蘭市史』『新釧路市史』『根室市史』『新留萌市史』『稚内市史』
『苫小牧市史』『網走市史』『新紋別市史』『石狩町史』『新広尾町史』『新千歳市史』『新旭川市史』『苫小牧港史』
『石狩湾新港史』『北海道貿易史（社北海道貿易物産振興会）』『二十年の歩み（日鐵セメント株式会社）』

<注意事項>

- ・ 本資料に掲載した貿易額は、函館税関が管轄する北海道の各港で申告された貨物の通関額です。
- ・ 輸出は貨物価格に船舶・航空機へ積載するまでの輸送費等を加算した価格(FOB)、輸入は貨物価格に保険料や日本に到着するまでの運賃、梱包費等の諸経費を加算した価格(CIF)を計上しています。
- ・ 本記事のほか、貿易額等過去の発表分を含め函館税関ホームページに掲載しています。

函館税関ホームページはこちら → <http://www.customs.go.jp/hakodate/>



【本資料に関する問合せ先】

函館税関 調査部 調査統計課

〒040-8561 函館市海岸町24番4号 函館港湾合同庁舎3階

Tel:0138-40-4281（直通）

※本資料を引用する際は「函館税関の資料による」旨注記願います。

1. 北海道の輸出入貿易年表(明治2年～平成29年)

年	主な出来事	輸 出			輸 入				
		貿易額	主な品目		貿易額	主な品目			
1869年 (明治2年)	・開拓使設置 ・「蝦夷地」を「北海道」と改称 ・「箱館」を改め「函館」に	425,997 円	昆布 308,387円	鮑(あわび) 37,053円	煎海鼠(いりこ:乾燥なまこ) 37,052円	2,247 円	白砂糖 1,035円	食物機械 505円	英呉呂服(毛織物) 384円
1870年 (明治3年)		400,773 円	昆布 265,134	鮑 44,713	煎海鼠 42,936	2,995 円	赤砂糖 1,943	酒 566	棒砂糖 400
1871年 (明治4年)		434,053 円	昆布 324,248	鮑 50,752	煎海鼠 29,108	19,632 円	赤砂糖 9,457	生金巾(なまかなきん:平織の綿織物) 3,114	縹綿(くりわた:綿花から種子を除いた繊維部分) 2,749
1872年 (明治5年)	・「運上所」の呼称を「税関」に統一 ・硫黄(恵山)を採掘開始	338,946 円	昆布 156,487	煎海鼠 94,414	鮑 38,320	8,360 円	木挽機械 5,050	家具 777	硝子 600
1873年 (明治6年)	・「函館運上所」を「函館税関」と改称	457,987 円	昆布 245,911	煎海鼠 107,049	鮑 39,401	42,624 円	石炭油(石油) 2,708	赤砂糖 2,109	洋酒 1,720
1874年 (明治7年)	・屯田兵制度制定	278,904 円	昆布 143,342	煎海鼠 66,301	鮑 18,813	16,449 円	縹綿 7,200	石炭油 3,260	白砂糖 1,233
1875年 (明治8年)		395,997 円	昆布 225,877	煎海鼠 71,550	鮑 41,403	37,762 円	石炭油 16,837	帆前船 7,000	石炭 4,545
1876年 (明治9年)	・麦酒、葡萄酒醸造所、製糸工場(以上札幌)、缶詰所(石狩)竣工 ・米国博覧会に道産品(昆布、煎海鼠、鮑、鰯等)出品	477,105 円	昆布 323,664	煎海鼠 83,370	硫黄 16,414	20,791 円	縹綿 8,786	石炭油 4,464	麦酒(ビール) 944
1877年 (明治10年)		483,047 円	昆布 318,145	煎海鼠 59,447	干鰯(ほしするめ) 30,868	14,628 円	縹綿 6,800	帆前船 5,200	赤砂糖 1,000
1878年 (明治11年)	・西洋形船舶(函館)の製造開始	722,265 円	昆布 440,590	米 101,535	煎海鼠 65,868	14,056 円	石炭 3,600	石炭油 1,540	縹綿 1,490

年	主な出来事	輸 出				輸 入			
		貿易額	主な品目			貿易額	主な品目		
1879年 (明治12年)		692,770 円	昆布 526,248	煎海鼠 58,329	干錫 51,227	4,432 円	塩魚 1,573	キャンドル 241	粉 155
1880年 (明治13年)	・商社(函館)が設置され、木材取引開始	749,262 円	昆布 523,007	煎海鼠 106,659	干錫 54,583	221,704 円	鉄器 68,750	蒸気船 37,000	機械類 22,963
1881年 (明治14年)		826,374 円	昆布 605,633	煎海鼠 141,097	刻昆布 39,447	128,273 円	鉄道線 69,000	熟鉄(ズク鉄:鉄鋼くず) 8,031	石炭 8,000
1882年 (明治15年)	・「開拓使」を廃止し、「函館・札幌・根室の3県」をおく ・幌内鉄道(札幌-幌内間)が全線竣工	504,953 円	昆布 348,321	煎海鼠 101,977	刻昆布 28,641	7,417 円	石炭油 2,329	食物 1,915	毛皮 545
1883年 (明治16年)		436,750 円	昆布 204,078	硫黄 78,243	煎海鼠 77,786	4,378 円	飲食物類 1,344	毛皮 248	鉄錨 200
1884年 (明治17年)		378,913 円	昆布 263,804	煎海鼠 38,817	硫黄 25,157	5,004 円	石炭油 2,197	飲食物類 967	繰綿 540
1885年 (明治18年)		684,853 円	昆布 455,169	硫黄 86,584	煎海鼠 70,678	10,324 円	石炭油 4,591	帆船 1,050	衣類 219
1886年 (明治19年)	・「函館・札幌・根室の3県」を廃し、「北海道庁」をおく ・軸木(マッチ:杜警)工場竣工	679,339 円 ほか漁業貿易(不明)	昆布 448,003	煎海鼠 74,147	干錫 43,655	15,576 円 ほか漁業貿易 40,432	石炭油 11,292	衣類 1,006	穀粉 286
1887年 (明治20年)		735,477 円 ほか漁業貿易(不明)	昆布 411,982	硫黄 106,845	煎海鼠 64,920	11,422 円 ほか漁業貿易 38,907	石炭油・石油 8,614	衣類 379	機械類 235
1888年 (明治21年)		536,054 円 ほか漁業貿易(不明)	昆布 326,831	硫黄 56,313	煎海鼠 36,795	2,555 円 ほか漁業貿易 79,855	衣類 692	金属類 499	皮類 132

年	主な出来事	輸 出				輸 入			
		貿易額	主な品目			貿易額	主な品目		
1889年 (明治22年)	・大日本帝国憲法発布 ・昆布生産者が連合組合(札幌)組織	871,447 円 ほか漁業貿易(不明)	昆布 405,447	硫黄 220,045	干錫 49,420	115,784 円 ほか漁業貿易 95,087	筒管・管鉄 79,494	機械器具 17,092	鉛 7,891
1890年 (明治23年)	・セメント工場(上磯)、絹糸製造所(札幌)竣工	842,838 円 ほか漁業貿易(不明)	昆布 533,119	硫黄 118,450	煎海鼠 70,376	674,680 円 ほか漁業貿易 69,664	道鉄 435,740	機械器具 229,630	セメント 2,410
1891年 (明治24年)		683,456 円 ほか漁業貿易 62,593	昆布 293,949	硫黄 227,012	煎海鼠 49,013	210,454 円 ほか漁業貿易 46,494	道鉄 139,281	石炭 38,640	鉄釘 16,589
1892年 (明治25年)		874,468 円 ほか漁業貿易 45,326	昆布 372,138	硫黄 244,214	石炭 93,570	5,857 円 ほか漁業貿易 109,054	石炭 2,670	繰綿 675	毛皮 384
1893年 (明治26年)		698,262 円 ほか漁業貿易 65,155	昆布 284,040	硫黄 204,684	石炭 60,482	3,585 円 ほか漁業貿易 191,746	衣類 1,151	書籍 372	家具類 222
1894年 (明治27年)	・日清戦争勃発	959,294 円 (漁業貿易(不明)を含む)	鉱産物(石炭、硫黄等) 410,946	水産物(昆布、煎海鼠、鰯等) 353,591	農産物(米等) 46,086	254,086 円 (漁業貿易(不明)を含む)	水産物(鯨かす、塩鮭、塩鱒等) 233,592	工産物(麦酒等) 1,523	その他 18,971
1895年 (明治28年)	・商工会議所(函館・小樽)設立	1,138,788 円 (漁業貿易(不明)を含む)	鉱産物(石炭、硫黄等) 538,287	水産物(昆布、煎海鼠、鰯等) 421,013	工産物(麦酒等) 47,098	504,036 円 (漁業貿易(不明)を含む)	水産物(鯨かす、塩鮭、塩鱒等) 424,973	工産物(麦酒等) 93	その他 78,970
1896年 (明治29年)	・炭鉱鉄道工場(岩見沢)設立 ・造船所(函館)創立	1,621,039 円 (漁業貿易(不明)を含む)	鉱産物(石炭、硫黄等) 673,990	水産物(昆布、煎海鼠、鰯等) 451,409	工産物(麦酒等) 151,755	878,738 円 (漁業貿易(不明)を含む)	水産物(鯨かす、塩鮭、塩鱒等) 640,418	鉱産物(石炭油、石油) 8,652	工産物(麦酒等) 260
1897年 (明治30年)		2,828,558 円 (漁業貿易(不明)を含む)	鉱産物(石炭、硫黄等) 1,308,606	水産物(昆布、煎海鼠、鰯等) 672,342	工産物(麦酒等) 349,915	1,306,617 円 (漁業貿易(不明)を含む)	水産物(鯨かす、塩鮭、塩鱒等) 1,182,719	鉱産物(石炭油、石油) 14,106	工産物(麦酒等) 605
1898年 (明治31年)		2,350,836 円 (漁業貿易(不明)を含む)	鉱産物(石炭、硫黄等) 904,097	水産物(昆布、煎海鼠、鰯等) 544,227	工産物(麦酒等) 331,916	1,840,083 円 (漁業貿易(不明)を含む)	水産物(鯨かす、塩鮭、塩鱒等) 1,356,330	工産物(軌条(レール)及び同附属品等) 10,608	鉱産物(石油) 6,305

年	主な出来事	輸 出				輸 入			
		貿易額	主な品目			貿易額	主な品目		
1899年 (明治32年)	・北海道拓殖銀行設立 ・室蘭港、小樽港、釧路港開港 ・関税法公布	2,971,652 円 (漁業貿易(不明)を含む)	鉱産物(石炭、硫黄等) 849,900	水産物(昆布、煎海鼠、鰯等) 802,330	林産物(木材等) 557,593	1,871,226 円 (漁業貿易(不明)を含む)	水産物(鯨かす、塩鮭、塩鱒等) 1,656,061	鉱産物(石油) 100,224	工産物(軌条及び同附属品等) 19,768
1900年 (明治33年)	・米国来石油直輸入船が初入港	3,986,710 円 (漁業貿易(不明)を含む)	鉱産物(石炭、硫黄等) 1,321,709	水産物(昆布、煎海鼠、鰯等) 781,877	林産物(木材等) 686,015	3,398,904 円 (漁業貿易(不明)を含む)	水産物(鯨かす、塩鮭、塩鱒等) 2,577,727	鉱産物(石油) 374,077	工産物(軌条及び同附属品等) 275,359
1901年 (明治34年)		3,181,040 円 ほか漁業貿易 658,372	石炭 845,297	昆布 811,465	硫黄 466,691	583,396 円 ほか漁業貿易 1,983,911	石油 324,425	精糖 105,542	軌条 69,446
1902年 (明治35年)	・製材工場(砂川)完成	2,799,118 円 ほか漁業貿易 807,405	石炭 894,198	鉄道枕木 500,171	硫黄 468,250	962,307 円 ほか漁業貿易 2,382,680	軌条 462,067	石油 350,394	軌条附属品 40,779
1903年 (明治36年)	・造船所(函館)に1万トンのドック開業	4,212,531 円 ほか漁業貿易 1,017,874	石炭 1,039,447	鉄道枕木 900,417	硫黄 689,913	1,773,502 円 ほか漁業貿易 2,858,170	石油 754,682	軌条 671,671	鉄道機関車及び部分品 103,972
1904年 (明治37年)	・日露戦争勃発 ・小樽一函館間の鉄道全通 ・屯田兵制度廃止	4,279,198 円 ほか漁業貿易 4,027	鉄道枕木 975,013	昆布 816,303	硫黄 663,410	778,948 円 ほか漁業貿易 92,214	石油 706,162	機械用油 4,292	毛皮 3,559
1905年 (明治38年)	・小樽-コルサコフ間の定期航路創設	5,243,418 円 ほか漁業貿易 12,486	鉄道枕木 1,108,271	昆布 1,026,313	木材及び板 968,486	1,041,649 円 ほか漁業貿易 84,133	石油 594,776	軌条 162,180	麦粉 128,173
1906年 (明治39年)		7,604,321 円 ほか漁業貿易 534,619	木材及び板 2,267,492	鉄道枕木 1,960,212	硫黄 924,737	1,103,296 円 ほか漁業貿易 829,203	石油 547,332	麦粉 305,455	軌条 186,658
1907年 (明治40年)	・「札幌農学校」を「東北帝国大学農科大学」と改称 ・製鉄所(室蘭)設立	10,343,563 円 ほか漁業貿易 1,299,364	木材及び板 3,725,164	鉄道枕木 3,246,570	昆布 844,410	797,729 円 ほか漁業貿易 2,508,107	石油 252,633	麦粉 219,126	木材及び板 102,195
1908年 (明治41年)	・製鉄所(輪西)と製紙工場(苫小牧)新設のため、鉄材・機械類・建設資材等を大量輸入	7,233,663 円 ほか漁業貿易 1,224,279	木材及び板 2,145,688	鉄道枕木 2,059,219	硫黄 762,842	7,565,403 円 ほか漁業貿易 2,962,560	軌条 1,624,642	建築材支柱類 1,449,086	諸機械及び鉄材類 1,201,833

年	主な出来事	輸 出				輸 入			
		貿易額	主な品目			貿易額	主な品目		
1909年 (明治42年)	・製鉄所(輪西)創業	5,927,958 円 ほか漁業貿易 1,427,338	鉄道枕木 2,135,694	木材及び板 1,238,399	硫黄 743,135	4,937,856 円 ほか漁業貿易 3,490,698	諸機械及び鉄材類 3,309,013	石油 665,429	電気機械 306,957
1910年 (明治43年)	・根室港開港 ・日本最大規模の製紙工場(苫小牧)開業	8,231,725 円 ほか漁業貿易 1,137,741	鉄道枕木 2,803,695	木材及び板 2,105,659	硫黄 900,208	956,308 円 ほか漁業貿易 3,703,718	諸機械 647,839	汽船 68,341	りん鉱石 66,845
1911年 (明治44年)	・製鉄所(室蘭)の営業開始	7,538,496 円 ほか漁業貿易 2,198,308 ほか朝鮮貿易 600,824	木材及び板 3,046,476	鉄道枕木 1,820,978	昆布 593,514	762,409 円 ほか漁業貿易 5,111,474 ほか朝鮮貿易 157	鉄材及び鉄製品 433,710	銑鉄 315,933	石油 178,278
1912年 (大正元年)	・製油所(手稲)竣工	8,422,701 円 ほか漁業貿易 2,959,785 ほか朝鮮貿易 878,216	木材及び板 3,036,346	鉄道枕木 1,670,847	硫黄 920,785	866,535 円 ほか漁業貿易 4,389,484 ほか朝鮮貿易 79,186	石油 346,882	銑鉄 123,284	ニッケル 104,963
1913年 (大正2年)		11,226,767 円 ほか漁業貿易 2,179,238 ほか朝鮮貿易 526,007	木材及び板 4,553,123	鉄道枕木 1,861,070	硫黄 1,177,317	1,816,652 円 ほか漁業貿易 5,218,762 ほか朝鮮貿易 11,394	米及びもみ 327,958	石油 324,510	りん鉱石 277,970
1914年 (大正3年)	・第1次世界大戦勃発	13,759,682 円 ほか漁業貿易 2,010,730 ほか朝鮮貿易 740,527	木材及び板 4,457,817	鉄道枕木 2,269,418	硫黄 1,096,448	1,455,209 円 ほか漁業貿易 6,140,687 ほか朝鮮貿易 477	米及びもみ 482,673	りん鉱石 230,571	鉄鋼(鉄鉱石のこと) 194,270
1915年 (大正4年)		12,072,065 円 ほか漁業貿易 2,721,998 ほか朝鮮貿易 563,907	木材及び板 1,583,062	鉄道枕木 1,507,358	硫黄 1,476,247	1,121,473 円 ほか漁業貿易 4,604,365 ほか朝鮮貿易 28,929	石油 247,328	砂糖 175,418	鉄鋼 162,549
1916年 (大正5年)	・硫黄輸出のため、函館-豪州航路開始	15,480,527 円 ほか漁業貿易 3,630,271 ほか朝鮮貿易 426,216	硫黄 2,562,184	木材及び板 2,133,285	昆布及び刻昆布 1,532,583	1,475,931 円 ほか漁業貿易 3,862,836 ほか朝鮮貿易 88,866	石油 229,862	鉄鋼 169,508	豆かす 136,985
1917年 (大正6年)		21,729,918 円 ほか漁業貿易 5,391,096 ほか朝鮮貿易 399,500	でん粉 3,997,044	いんげん豆 3,005,280	豌豆(えんどう) 2,431,123	2,837,524 円 ほか漁業貿易 5,382,276 ほか朝鮮貿易 258,053	鉄鋼 740,351	銑鉄 329,043	豆かす 206,822
1918年 (大正7年)	・第1次世界大戦終戦 ・道内人口が217万人に ・製缶工場(七重浜等)設立	24,862,348 円 ほか漁業貿易 7,114,482 ほか朝鮮貿易 623,451	でん粉 5,361,694	昆布及び刻昆布 2,955,267	豌豆 2,906,508	5,217,719 円 ほか漁業貿易 11,229,705 ほか朝鮮貿易 1,335,687	鉄鋼 2,357,114	食塩 757,830	豆かす 667,846

年	主な出来事	輸 出				輸 入			
		貿易額	主な品目			貿易額	主な品目		
1919年 (大正8年)	・ベニア製造所(十勝)設立	21,593,636 円 ほか漁業貿易 8,366,821 ほか朝鮮貿易 665,523	木材及び板 4,375,201	鉄道枕木 3,106,547	いんげん豆 2,313,900	6,096,448 円 ほか漁業貿易 15,057,868 ほか朝鮮貿易 3,859,206	鉄鋼 2,713,946	石炭 874,005	石油 373,072
1920年 (大正9年)		22,829,470 円 ほか漁業貿易 13,228,186 ほか朝鮮貿易 920,598	木材及び板 7,890,180	鉄道枕木 3,991,456	昆布及び刻昆布 1,953,152	8,374,393 円 ほか漁業貿易 12,269,770 ほか朝鮮貿易 1,680,851	鉄鋼 1,229,670	石油 749,924	食塩 749,698
1921年 (大正10年)	・鉄道根室本線が全通 ・北洋で工船かに漁業開始	17,587,729 円 ほか漁業貿易 6,219,207	鉄道枕木 3,172,218	木材及び板 2,514,481	昆布及び刻昆布 2,035,819	3,613,902 円 ほか漁業貿易 15,515,755	木材類 813,294	石油 516,001	小麦及び小麦粉 435,568
1922年 (大正11年)	・札幌、函館、小樽、旭川、室蘭、 釧路の6区が市に	22,292,135 円 ほか漁業貿易 10,341,230	豌豆 3,593,164	木材及び板 3,427,494	昆布及び刻昆布 2,283,896	9,586,469 円 ほか漁業貿易 14,777,204	食塩 2,538,377	木材類 1,424,392	石油 664,029
1923年 (大正12年)	・関東大震災発生 ・乳製品工場(奈井江)の製造開始	18,104,802 円 ほか漁業貿易 8,011,606	豌豆 3,359,838	昆布及び刻昆布 2,634,963	木材及び板 2,574,972	6,320,483 円 ほか漁業貿易 15,225,228	砂糖 891,425	石油 813,317	鉄鋼 502,123
1924年 (大正13年)		23,039,611 円 ほか漁業貿易 8,415,062	豌豆 5,187,541	木材及び板 3,722,117	昆布及び刻昆布 2,463,268	9,152,701 円 ほか漁業貿易 20,230,943	石油 1,058,914	豆かす 1,020,595	小麦 792,463
1925年 (大正14年)	・日ソ基本条約締結 ・北海道製酪販売組合設立	26,207,669 円 ほか漁業貿易 6,995,676	木材及び板 5,548,560	豌豆 3,498,760	いんげん豆 2,722,133	10,482,147 円 ほか漁業貿易 20,232,505	米 2,644,146	豆かす 1,372,050	小麦 1,128,550
1926年 (昭和元年)		27,389,531 円 ほか漁業貿易 6,855,441	豌豆 8,149,515	木材及び板 4,582,971	いんげん豆 1,815,028	12,654,890 円 ほか漁業貿易 16,504,167	小麦 2,460,148	豆かす 2,441,279	米 2,400,890
1927年 (昭和2年)		25,562,081 円 ほか漁業貿易 8,378,036	豌豆 6,707,678	木材及び板 5,279,944	いんげん豆 2,759,967	17,138,621 円 ほか漁業貿易 13,632,876	豆かす 4,603,195	米 3,835,618	ブリキ 1,785,305
1928年 (昭和3年)		25,975,352 円 ほか漁業貿易 8,434,918	木材及び板 6,654,299	豌豆 5,006,963	いんげん豆 4,423,755	17,625,730 円 ほか漁業貿易 15,918,743	豆かす 4,629,043	ブリキ 1,200,941	小麦 1,164,988

年	主な出来事	輸 出				輸 入			
		貿易額	主な品目			貿易額	主な品目		
1929年 (昭和4年)	・ニューヨーク株式市場大暴落(世界恐慌) ・母船式鮭鱒漁業が興り、工船による缶詰生産が発展	41,599,718 円 (含漁業貿易 8,183,803)	いんげん豆 8,349,855	木材及び板 7,894,715	豌豆 5,357,592	21,605,632 円 (含漁業貿易 13,195,008)	豆かす 3,754,776	ブリキ 2,519,919	原油 1,342,706
1930年 (昭和5年)	・金輸出解禁(金本位制の復帰)	39,436,024 円 (含漁業貿易 14,747,708)	木材及び板 5,047,995	いんげん豆 4,037,765	豌豆 2,130,208	26,706,918 円 (含漁業貿易 13,521,264)	ブリキ 2,699,599	豆かす 2,189,283	鉄鋼 1,700,542
1931年 (昭和6年)	・満州事変勃発 ・中国への昆布、貝柱、乾鰯等の輸出が激減	22,262,681 円 (含漁業貿易 6,388,203)	豌豆 2,590,063	いんげん豆 2,051,564	挽材 1,705,560	17,378,945 円 (含漁業貿易 11,205,247)	鹹魚(かんぎょ:塩漬け魚) 6,752,565	魚介缶詰 1,874,148	豆かす 1,292,204
1932年 (昭和7年)		25,926,859 円 (含漁業貿易 6,183,428)	豌豆 4,491,085	挽材 2,881,109	鮭缶詰 1,431,868	18,891,031 円 (含漁業貿易 12,079,743)	塩鮭 4,959,850	塩鱒 2,420,108	魚介缶詰 1,904,391
1933年 (昭和8年)	・東北・三陸地方大地震発生 ・北海道豆類輸出組合結成	38,778,719 円 (含漁業貿易 6,703,895)	豌豆 5,561,318	挽材 4,703,887	鮭缶詰 4,003,338	22,130,669 円 (含漁業貿易 11,368,646)	塩鮭 5,975,220	葉鉄(ブリキ) 2,394,197	塩鱒 1,655,279
1934年 (昭和9年)	・野付牛薄荷工場(北見)の操業開始 ・函館大火発生	57,662,997 円 (含漁業貿易 6,390,663)	鮭缶詰 11,245,971	豌豆 6,230,866	挽材(ひき材:製材) 4,933,682	25,377,864 円 (含漁業貿易 12,982,663)	塩鮭 5,832,912	葉鉄(ブリキ) 2,986,335	塩鱒 2,866,884
1935年 (昭和10年)	・合板工場(銭函)新設	52,242,289 円 (含漁業貿易 7,029,529)	鮭缶詰 6,853,065	挽材 5,865,021	豌豆 4,148,642	11,823,429 円 (含漁業貿易 12,751,926)	鉄鋳 2,207,985	葉鉄 2,018,515	銑鉄 1,156,069
1936年 (昭和11年)	・留萌港開港 ・炭山景気一大手炭鋳で増炭	65,971,248 円 ほか漁業貿易 8,238,730	鮭缶詰 21,113,989	挽材 7,252,801	豌豆 4,568,174	11,836,197 円 ほか漁業貿易 15,937,796	鉄鋳 2,007,474	食塩 1,460,074	生ゴム 1,416,901
1937年 (昭和12年)	・日中戦争勃発 ・札幌ー東京間の定期航空路開設	71,931,098 円 ほか漁業貿易 8,668,349	鮭缶詰 17,024,630	挽材 10,053,781	鱒缶詰 5,021,624	18,948,740 円 ほか漁業貿易 17,064,622	鋳及び金属 8,744,407	生ゴム 1,606,307	豆かす 1,403,228
1938年 (昭和13年)	・輸出海産物に関する水産組合設置	71,582,092 円 ほか漁業貿易 9,787,333	鮭缶詰 20,901,103	鱒缶詰 6,092,633	挽材 5,245,240	23,041,045 円 ほか漁業貿易 18,050,437	鋳及び金属 9,506,200	食塩 2,606,822	硫酸カリ 2,190,000

年	主な出来事	輸 出			輸 入				
		貿易額	主な品目		貿易額	主な品目			
1939年 (昭和14年)	・第2次世界大戦勃発	112,622,099 円 ほか漁業貿易 11,076,130	鮭缶詰 24,935,337	丸太及び割材類 10,441,972	塩鱒 9,381,521	21,901,831 円 ほか漁業貿易 22,832,868	機械類 4,137,747	豆かす 2,699,176	石炭 2,488,739
1940年 (昭和15年)		46,891,672 円 ほか漁業貿易(不明)	昆布 8,203,022	いんげん豆 3,168,912	乾海鼠 2,786,258	40,217,499 円 ほか漁業貿易(不明)	米 15,735,041	機械類 9,218,408	石炭 7,671,723
1941年 (昭和16年)	・太平洋戦争勃発 ・貿易が円ブロック経済圏に	29,798,900 円 ほか漁業貿易 12,551,674	昆布 3,568,012	乾貝柱 2,289,707	鮮魚介 2,013,425	54,040,999 円 ほか漁業貿易 35,474,271	石炭 12,811,058	塩 3,574,795	豆かす 3,316,970
1942年 (昭和17年)		14,316,410 円 ほか漁業貿易 16,775,561	乾海鼠 3,761,754	乾貝柱 1,959,419	馬鈴薯 1,545,807	59,996,310 円 ほか漁業貿易 29,896,855	石炭 14,373,534	鉱 14,152,051	米 11,189,100
1943年 (昭和18年)		9,186,905 円 ほか漁業貿易 10,121,251	昆布 2,180,099	馬鈴薯 1,547,677	乾貝柱 1,049,101	27,505,078 円 ほか漁業貿易 31,490,027	石炭 7,573,550	鉄 7,145,219	鉱 4,761,742
1944年 (昭和19年)	・北海道水産業会設立	8,570,583 円 ほか漁業貿易(不明)	馬鈴薯 1,884,502	鮮魚介 1,655,987	乾貝柱 1,108,999	5,974,761 円 ほか漁業貿易(不明)	食塩 2,420,122	鉄鉱 1,644,848	大豆油かす 1,284,785
1945年 (昭和20年)	・終戦 ・連合軍(GHQ)日本進駐を開始	11,998,119 円 ほか漁業貿易(不明)	パルプ製造機 3,939,357	馬鈴薯 1,726,051	乾海鼠 959,051	7,341,089 円 ほか漁業貿易(不明)	玉蜀黍(とうもろこし) 3,995,697	食塩 2,352,924	大豆油かす 541,194
1946年 (昭和21年)	・米国来救援米が小樽入港	41,456,337 円	木材 40,100,487	コールタールピッチ 1,355,850	—	173,410,287 円	小麦 69,894,199	食糧缶詰 41,238,058	玉蜀黍 19,352,496
1947年 (昭和22年)	・関税貿易一般協定(GATT)調印 ・日本国憲法施行	160,889,155 円	石炭 83,166,030	木材 57,833,725	ベニヤ板 19,889,400	807,749,523 円	小麦 330,971,320	小麦粉 102,845,209	玉蜀黍 94,652,228
1948年 (昭和23年)	・稚内港開港 ・玉葱農業協同組合設立(農協設立の皮切り)	350,801,072 円	木材 165,612,004	石炭 98,711,060	鰯 18,900,000	2,882,861,959 円	小麦粉 831,974,239	小麦 681,811,789	砂糖 515,477,400

年	主な出来事	輸 出				輸 入			
		貿易額	主な品目			貿易額	主な品目		
1949年 (昭和24年)	・ドル360円の固定相場設定	1,078,813,398 円	挽材 823,790,860	特殊鋼 77,218,595	船舶 73,376,650	6,961,052,498 円	小麦 3,237,078,022	食塩 1,120,898,715	石炭 1,042,861,890
1950年 (昭和25年)	・朝鮮動乱勃発、朝鮮特需で産業界好況 ・さっぽろ雪まつり開催	3,424,102,615 円	製材 1,699,365,315	ビレット 405,997,356	錫 367,453,945	6,540,956,535 円	小麦 2,881,407,893	米 1,714,437,743	鉄鉱 576,153,095
1951年 (昭和26年)	・日米安全保障条約調印 ・小樽税関支署札幌出張所設置 ・苫小牧港の着工	6,862,471,496 円	製材 3,009,175,447	えん麦 610,494,980	錫 574,638,991	9,388,728,218 円	米 2,220,686,121	鉄鉱 2,179,966,963	石炭 1,657,129,114
1952年 (昭和27年)		10,413,949,414 円	鉄鋼材 3,112,752,613	製材 3,040,916,262	錫 1,225,427,129	17,314,323,659 円	小麦 5,431,789,408	鉄鉱 3,741,406,589	米 3,486,652,448
1953年 (昭和28年)	・道産合板工業、米国との貿易好調	7,978,702 千円	製材 2,305,563	鉄鋼材 1,238,418	石炭 810,873	11,820,631 千円	米 2,510,839	石炭 2,057,299	鉄鉱 2,022,803
1954年 (昭和29年)	・神武景気(S29～32) ・青函トンネル工事起工式 ・台風15号襲来、青函連絡船洞爺丸等5隻沈没	8,318,183 千円	製材 3,889,584	鉄鋼材 1,178,613	合板 1,054,937	19,990,179 千円	米 7,436,035	小麦 3,591,444	鉄鉱 2,807,983
1955年 (昭和30年)	・高度経済成長期(S30～48) ・空前の造船ブーム到来	12,312,024 千円	製材 5,325,459	鉄鋼材 3,796,461	合板 1,268,789	18,512,195 千円	米 5,335,550	小麦 3,275,452	鉄鉱 2,452,711
1956年 (昭和31年)	・日ソ共同宣言 ・日ソ漁業条約調印 ・製油所(室蘭、函館)操業開始	14,799,501 千円	製材 3,824,979	鉄鋼材 3,774,684	合板 2,234,542	23,488,380 千円	鉄鉱石 5,331,875	小麦 3,809,073	石炭 2,813,787
1957年 (昭和32年)		15,486,686 千円	合板 4,133,918	製材 3,450,179	船舶 2,740,286	35,706,369 千円	鉄鉱石 7,764,954	くず鉄(鉄鋼くず) 4,663,364	石炭 4,653,595
1958年 (昭和33年)	・岩戸景気(S33～36) ・日本貿易振興会(JETRO)設立	18,847,147 千円	合板 4,627,244	製材 3,593,303	船舶 2,951,271	20,035,729 千円	鉄鉱石 4,911,806	小麦 3,734,949	原油 2,401,842

年	主な出来事	輸 出				輸 入			
		貿易額	主な品目			貿易額	主な品目		
1959年 (昭和34年)	・「北海道経済農業協同組合連合会」を「ホクレン農業協同組合連合会」に改称	21,318,157 千円	合板 6,279,794	船舶 3,890,459	製材 3,581,401	22,410,406 千円	鉄鉱石 4,527,745	原油 2,899,535	石炭 2,582,943
1960年 (昭和35年)	・ベトナム戦争勃発 ・大規模な製紙工場(白老)操業開始	18,659,280 千円	合板 6,507,930	製材 3,574,193	尿素 2,281,568	29,543,960 千円	鉄鉱石 7,036,643	原油 4,065,229	石炭 3,545,952
1961年 (昭和36年)		19,891,296 千円	合板 5,429,809	製材 3,346,151	船舶 2,939,553	44,975,758 千円	鉄鉱石 10,312,467	くず鉄 8,818,069	石炭 4,851,937
1962年 (昭和37年)	・日米相互関税引き下げ協定調印 ・オリンピック景気(S37~39)	23,601,076 千円	合板 6,850,797	尿素 3,390,899	製材 2,592,276	39,220,981 千円	鉄鉱石 10,676,174	石炭 4,627,322	原油 4,075,404
1963年 (昭和38年)		29,955,816 千円	鉄鋼 11,046,851	合板 9,110,916	尿素 2,916,836	43,392,142 千円	鉄鉱石 12,757,234	石炭 4,297,331	原油 4,102,057
1964年 (昭和39年)	・東京オリンピック開催 ・東海道新幹線開業 ・北海道貿易物産振興会設立	37,588,990 千円	鉄鋼 12,973,727	合板 10,229,202	尿素 3,368,186	55,597,981 千円	鉄鉱石 15,476,278	石炭 5,547,938	原油 4,993,902
1965年 (昭和40年)	・いざなぎ景気(S40~45)	52,224,350 千円	鉄鋼 23,751,180	合板 9,061,690	船舶 5,787,228	59,189,032 千円	鉄鉱石 16,505,916	石炭 5,271,170	丸太 4,459,370
1966年 (昭和41年)	・苫小牧港開港	56,144,819 千円	鉄鋼 19,263,257	合板 10,882,901	船舶 7,124,584	66,854,196 千円	鉄鉱石 18,482,156	石炭 6,780,881	丸太 5,578,719
1967年 (昭和42年)		49,181,778 千円	鉄鋼 13,919,188	合板 11,362,081	船舶 6,943,335	79,472,492 千円	鉄鉱石 19,972,181	石炭 7,460,544	丸太 6,434,599
1968年 (昭和43年)	・国民総生産(GNP)が西独を抜き世界第2位に	59,785,719 千円	鉄鋼 17,375,235	合板 15,891,277	船舶 12,918,078	90,394,905 千円	鉄鉱石 22,251,918	石炭 8,507,101	丸太 8,289,107

年	主な出来事	輸 出				輸 入			
		貿易額	主な品目			貿易額	主な品目		
1969年 (昭和44年)	・ベアリング工場(芦別)設立	72,555,131 千円	鉄鋼 26,389,827	合板 15,682,117	船舶 11,362,594	112,801,271 千円	鉄鉱石 24,292,722	丸太 13,214,841	原油 7,696,033
1970年 (昭和45年)	・世界輸出国機構(OPEC)が全面的均一値上げを発表 ・大阪万博開催、道内人口518万人、札幌市は100万人突破	78,711,117 千円	鉄鋼 29,814,549	船舶 13,389,484	合板 12,583,499	141,471,955 千円	鉄鉱石 23,319,393	石炭 17,972,869	丸太 14,930,076
1971年 (昭和46年)	・為替レートの変動相場制開始	90,963,765 千円	鉄鋼 33,837,263	船舶 15,660,098	合板 14,291,968	124,576,530 千円	鉄鉱石 20,377,513	丸太 13,062,828	石炭 12,237,250
1972年 (昭和47年)	・冬季オリンピック札幌大会開催 ・沖縄返還	85,466,428 千円	鉄鋼 23,204,320	船舶 20,864,206	合板 15,952,822	107,202,521 千円	鉄鉱石 16,117,786	丸太 12,449,335	石炭 9,600,434
1973年 (昭和48年)	・第1次オイルショック ・大型の石油精製工場と備蓄基地(以上苫小牧)の操業開始 ・自動車部品工場(千歳)設立	120,050,901 千円	鉄鋼 39,715,601	船舶 27,604,297	魚介類 13,856,017	175,062,541 千円	丸太 29,520,347	鉄鉱石 20,722,272	パルプウッド 12,726,171
1974年 (昭和49年)		172,272,825 千円	鉄鋼 80,457,382	船舶 25,575,489	合板 12,566,201	364,708,452 千円	原油 94,420,128	丸太 35,389,866	鉄鉱石 30,141,230
1975年 (昭和50年)		152,219,149 千円	鉄鋼 55,164,255	船舶 20,480,518	合板 11,615,542	352,946,340 千円	原油 90,933,488	石炭 35,504,377	鉄鉱石 28,654,444
1976年 (昭和51年)	・苫小牧東部大規模工業基地着工	187,546,443 千円	鉄鋼 66,093,493	船舶 44,782,089	一般機械 19,424,543	376,268,678 千円	原油・粗油 110,779,946	木材 40,017,283	鉄鉱石 31,311,113
1977年 (昭和52年)	・領海12 ^{カイ} 、漁業水域200 ^{カイ} 実施	183,823,069 千円	鉄鋼 51,579,363	船舶 40,118,684	合板 21,605,870	372,172,266 千円	原油・粗油 94,194,718	木材 43,783,911	鉄鉱石 28,819,404
1978年 (昭和53年)	・石油火力発電所(伊達)運転開始	140,978,973 千円	鉄鋼 36,715,062	船舶 30,936,232	一般機械 15,490,115	312,056,157 千円	原油・粗油 86,509,238	木材 35,035,275	鉄鉱石 20,857,491

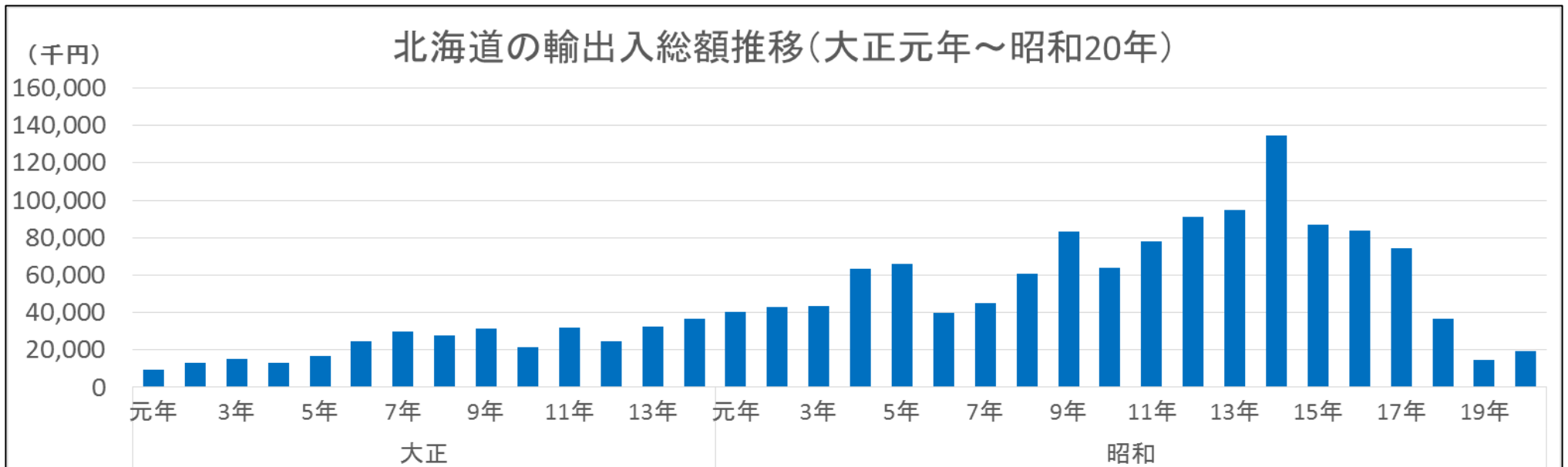
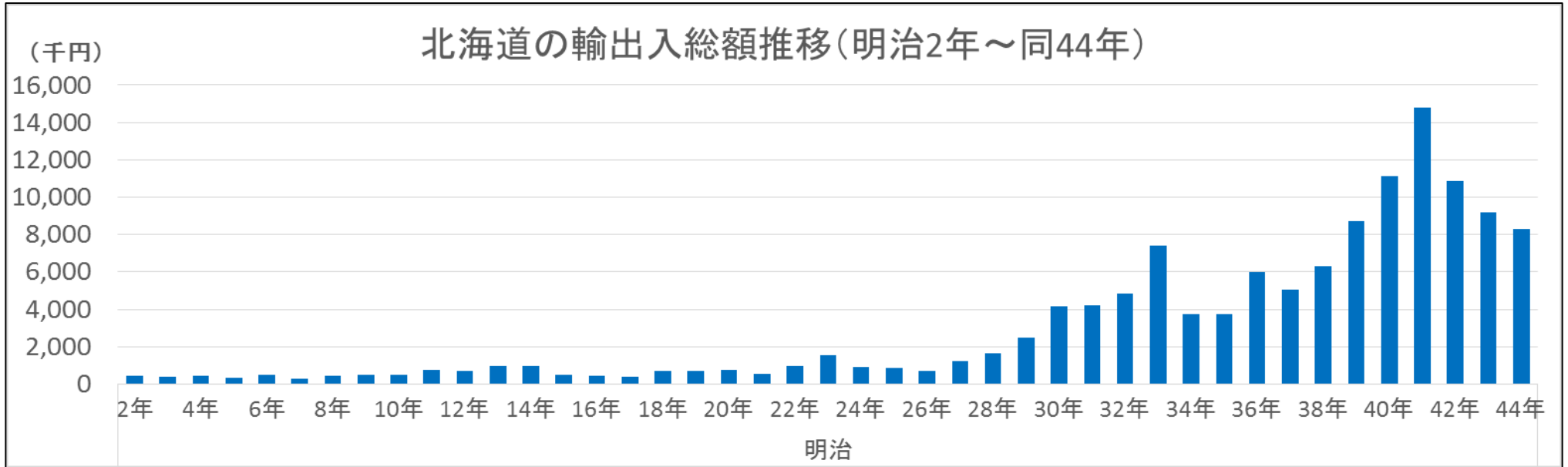
年	主な出来事	輸 出				輸 入			
		貿易額	主な品目			貿易額	主な品目		
1979年 (昭和54年)	・第2次オイルショック	156,152 百万円	鉄鋼 51,836	船舶 16,300	合板 14,463	482,881 百万円	原油・粗油 121,421	木材 69,749	魚介類・同調製品 40,238
1980年 (昭和55年)	・米、対ソ穀物輸出禁止 ・イラン・イラク戦争勃発 ・網走港、紋別港開港 ・石炭火力発電所(厚真)運転開始	158,129 百万円	鉄鋼 51,124	一般機械 17,138	紙・板紙 14,206	578,127 百万円	原油・粗油 179,846	木材 67,768	ウッドチップ 54,940
1981年 (昭和56年)	・千歳空港が税関空港指定	158,018 百万円	鉄鋼 36,058	一般機械 28,767	船舶 21,852	525,050 百万円	原油・粗油 156,854	魚介類・同調製品 45,298	石油製品 44,062
1982年 (昭和57年)		170,764 百万円	一般機械 47,080	鉄鋼 28,170	船舶 23,814	564,266 百万円	原油・粗油 187,665	石炭 65,198	魚介類・同調製品 48,705
1983年 (昭和58年)		139,686 百万円	鉄鋼 24,583	一般機械 23,158	無機化合物 17,207	474,101 百万円	原油・粗油 136,741	石炭 50,694	魚介類・同調製品 48,091
1984年 (昭和59年)	・米、対日貿易赤字拡大 ・飼料工場(釧路)設立 ・自動車エンジン工場(苫小牧)創業	128,478 百万円	鉄鋼 35,130	無機化合物 14,351	一般機械 12,245	540,340 百万円	原油・粗油 188,834	魚介類・同調製品 50,086	石炭 50,069
1985年 (昭和60年)	・プラザ合意(為替レート安定化) ・石炭の第1船が苫小牧東港入港 ・青函トンネル本坑が貫通	97,675 百万円	鉄鋼 28,004	無機化合物 11,669	紙・板紙 10,630	502,959 百万円	原油・粗油 150,647	魚介類・同調製品 65,419	石炭 60,495
1986年 (昭和61年)	・ウルグアイラウンドの開始宣言 (貿易自由化等) ・バブル景気(S61~H3)	80,961 百万円	鉄鋼 20,424	一般機械 11,257	船舶 8,790	316,225 百万円	原油・粗油 55,751	魚介類・同調製品 47,931	石炭 34,419
1987年 (昭和62年)	・花咲港開港	61,944 百万円	鉄鋼 13,326	一般機械 11,737	紙・板紙 9,654	346,767 百万円	原油・粗油 62,007	魚介類・同調製品 55,223	木材 35,403
1988年 (昭和63年)	・GATT理事会が日本の輸入制限 農産物の自由化勧告案採択 ・世界最長の青函トンネルが開業	76,263 百万円	一般機械 18,795	鉄鋼 11,667	紙・板紙 9,644	416,481 百万円	原油・粗油 74,495	魚介類・同調製品 67,170	木材 44,490

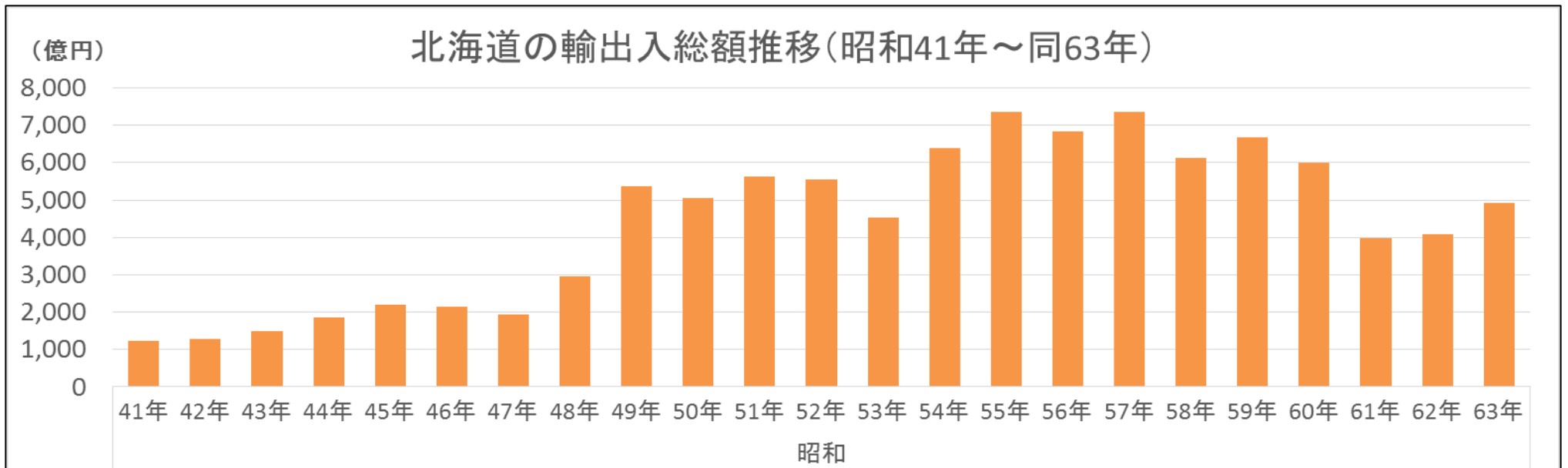
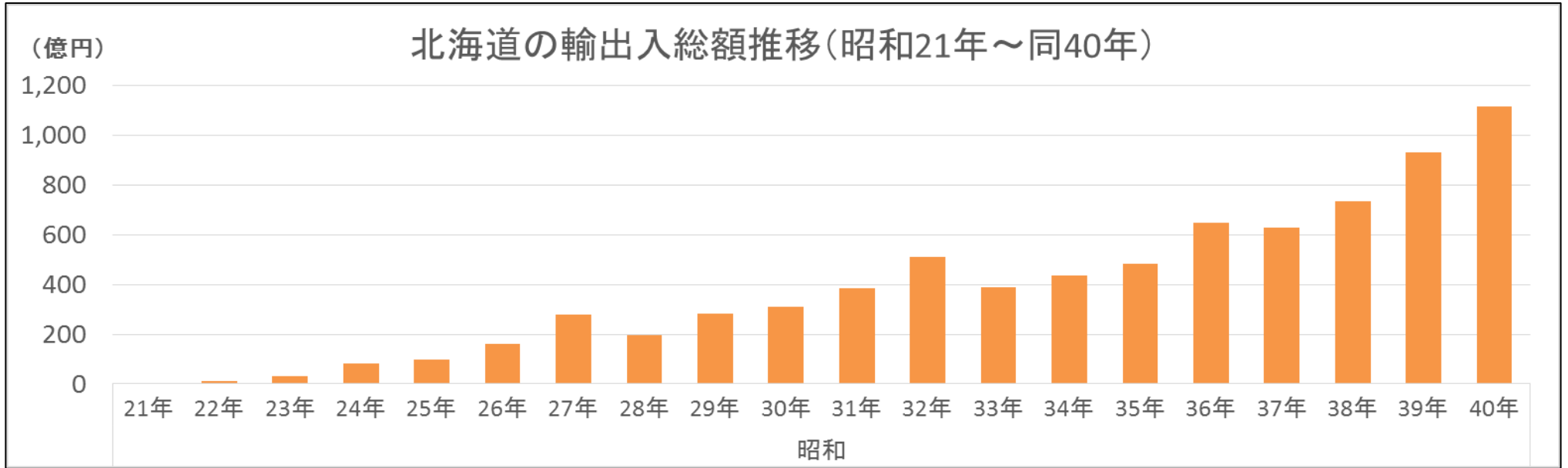
年	主な出来事	輸 出				輸 入			
		貿易額	主な品目			貿易額	主な品目		
1989年 (平成元年)	・消費税3%導入	77,532 百万円	一般機械 18,634	鉄鋼 14,489	飼料 12,329	514,030 百万円	原油・粗油 92,452	魚介類・同調製品 61,941	木材 52,211
1990年 (平成2年)		81,007 百万円	一般機械 22,547	紙・板紙 11,198	鉄鋼 10,544	592,594 百万円	原油・粗油 132,721	魚介類・同調製品 77,326	木材 56,894
1991年 (平成3年)	・湾岸戦争勃発 ・ソビエト連邦崩壊 ・バブル崩壊	91,177 百万円	一般機械 29,592	紙・板紙 13,013	鉄鋼 10,879	564,067 百万円	原油・粗油 137,772	魚介類・同調製品 60,674	石炭 45,622
1992年 (平成4年)	・自動車部品工場(苫小牧)操業	107,631 百万円	一般機械 37,676	鉄鋼 13,929	紙・板紙 9,386	535,336 百万円	原油・粗油 138,975	魚介類・同調製品 75,515	木材 47,064
1993年 (平成5年)	・北海道南西沖地震発生	126,342 百万円	一般機械 64,733	鉄鋼 12,734	船舶 12,328	469,146 百万円	原油・粗油 107,247	魚介類・同調製品 68,624	木材 62,127
1994年 (平成6年)	・石狩湾新港開港 ・函館空港の税関空港指定	161,953 百万円	一般機械 89,968	自動車の部分品 15,553	鉄鋼 12,657	480,317 百万円	原油・粗油 92,239	魚介類・同調製品 75,386	木材 58,607
1995年 (平成7年)	・世界貿易機構(WTO)設立 ・阪神淡路大震災発生	180,679 百万円	一般機械 88,179	自動車の部分品 30,929	紙・板紙 14,405	495,787 百万円	原油・粗油 95,987	魚介類・同調製品 80,041	木材 54,071
1996年 (平成8年)	・包括的核実験禁止条約(CTBT) に署名 ・金融ビックバン提唱	184,083 百万円	一般機械 87,908	自動車の部分品 33,145	鉄鋼 10,738	659,171 百万円	原油・粗油 136,777	魚介類・同調製品 102,345	木材 61,137
1997年 (平成9年)	・地球温暖化防止条約による京 都議定書採択 ・消費税5%導入 ・北海道拓殖銀行破綻	184,678 百万円	一般機械 72,895	自動車の部分品 34,950	鉄鋼 13,084	695,897 百万円	原油・粗油 169,892	魚介類・同調製品 92,105	木材 67,264
1998年 (平成10年)	・長野オリンピック開催	202,628 百万円	一般機械 66,765	自動車の部分品 38,578	鉄鋼 18,632	542,972 百万円	原油・粗油 114,426	魚介類・同調製品 84,166	ウッドチップ 40,890

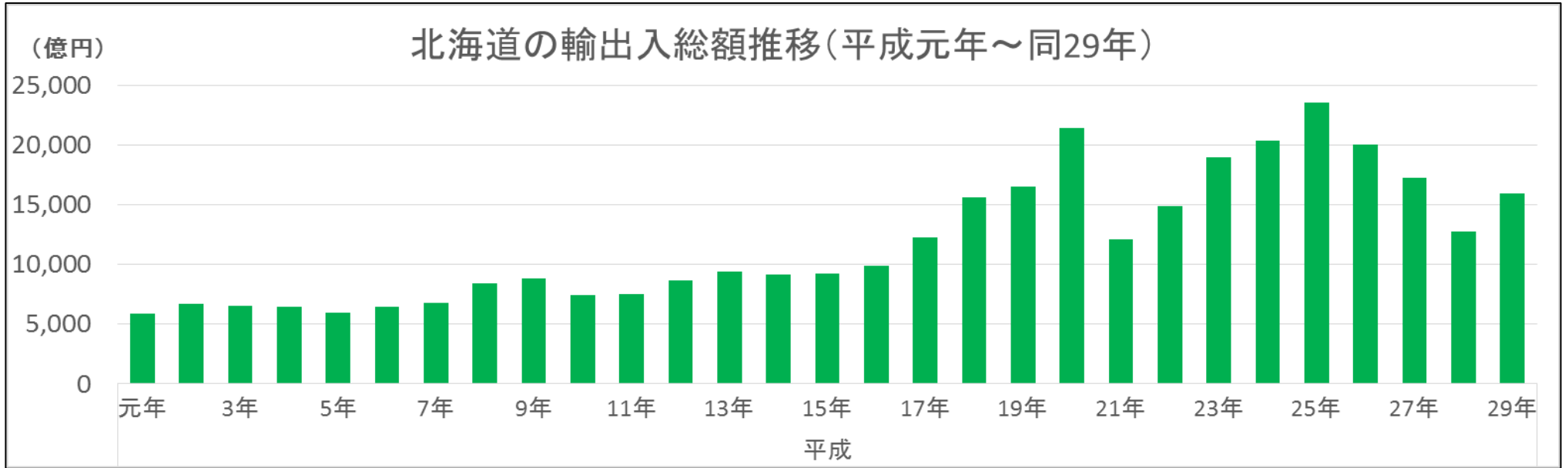
年	主な出来事	輸 出				輸 入			
		貿易額	主な品目			貿易額	主な品目		
1999年 (平成11年)	・十勝港開港	187,019 百万円	一般機械 61,859	自動車の部分品 39,902	鉄鋼 18,542	562,096 百万円	原油・粗油 129,037	魚介類・同調製品 98,475	木材 40,312
2000年 (平成12年)	・有珠山噴火	220,894 百万円	一般機械 70,675	自動車の部分品 65,982	紙・板紙 15,700	643,977 百万円	原油・粗油 193,644	魚介類・同調製品 103,376	木材 38,656
2001年 (平成13年)	・アフガニスタン戦争勃発 ・中央省庁再編	242,221 百万円	自動車の部分品 61,716	一般機械 56,198	米 33,817	701,122 百万円	原油・粗油 216,417	魚介類・同調製品 102,989	木材 36,388
2002年 (平成14年)		231,849 百万円	自動車の部分品 58,356	一般機械 44,208	鉄鋼 33,641	684,376 百万円	原油・粗油 222,168	魚介類・同調製品 97,687	石炭 35,124
2003年 (平成15年)	・イラク戦争勃発	211,770 百万円	一般機械 47,704	鉄鋼 32,666	自動車の部分品 27,738	709,611 百万円	原油・粗油 223,108	魚介類・同調製品 96,832	石油製品 40,026
2004年 (平成16年)		240,042 百万円	一般機械 48,043	鉄鋼 39,856	自動車の部分品 22,956	748,231 百万円	原油・粗油 229,046	魚介類・同調製品 91,681	石炭 60,462
2005年 (平成17年)		263,568 百万円	一般機械 44,474	鉄鋼 41,158	魚介類・同調製品 25,863	965,145 百万円	原油・粗油 411,405	魚介類・同調製品 100,010	石炭 58,493
2006年 (平成18年)	・旭川空港の税関空港指定	308,851 百万円	一般機械 46,687	鉄鋼 44,831	魚介類・同調製品 34,235	1,252,038 百万円	原油・粗油 658,522	魚介類・同調製品 92,936	石炭 60,418
2007年 (平成19年)		363,473 百万円	鉄鋼 65,680	一般機械 59,189	魚介類・同調製品 33,642	1,288,248 百万円	原油・粗油 674,193	魚介類・同調製品 87,753	石炭 64,942
2008年 (平成20年)	・北海道洞爺湖サミット開催 ・世界金融危機(リーマンショック)	412,728 百万円	一般機械 74,893	鉄鋼 61,259	自動車の部分品 47,636	1,730,254 百万円	原油・粗油 1,007,909	石炭 139,114	魚介類・同調製品 91,552

年	主な出来事	輸 出			輸 入				
		貿易額	主な品目			貿易額	主な品目		
2009年 (平成21年)		301,612 百万円	一般機械 63,632	鉄鋼 55,690	自動車の部分品 42,304	912,551 百万円	原油・粗油 408,626	石炭 96,240	魚介類・同調製品 66,092
2010年 (平成22年)		340,801 百万円	一般機械 65,705	鉄鋼 47,917	自動車の部分品 44,919	1,151,208 百万円	原油・粗油 611,545	石炭 99,197	魚介類・同調製品 62,504
2011年 (平成23年)	・東日本大震災発生 ・円相場1ドル75円と戦後最高値	367,600 百万円	鉄鋼 67,861	一般機械 65,331	自動車の部分品 48,345	1,531,145 百万円	原油・粗油 832,942	石炭 112,425	石油製品 108,921
2012年 (平成24年)	・LNG基地(石狩)営業運転開始	384,834 百万円	鉄鋼 75,906	自動車の部分品 72,174	一般機械 50,696	1,654,257 百万円	原油・粗油 886,171	石油製品 170,519	石炭 116,572
2013年 (平成25年)	・ASEAN諸国とのパートナーシップ強化	455,446 百万円	自動車の部分品 91,906	鉄鋼 63,684	魚介類・同調製品 53,105	1,898,089 百万円	原油・粗油 1,074,265	石油製品 142,295	石炭 99,595
2014年 (平成26年)	・消費税8%導入	478,726 百万円	自動車の部分品 127,252	鉄鋼 70,905	魚介類・同調製品 61,266	1,527,829 百万円	原油・粗油 624,629	石油製品 169,952	石炭 90,545
2015年 (平成27年)		493,807 百万円	自動車の部分品 107,785	鉄鋼 78,970	魚介類・同調製品 68,856	1,235,568 百万円	原油・粗油 345,678	石油製品 177,783	石炭 96,698
2016年 (平成28年)	・北海道新幹線開通	370,972 百万円	自動車の部分品 83,226	魚介類・同調製品 58,539	一般機械 47,890	905,452 百万円	原油・粗油 209,817	石油製品 97,084	石炭 70,173
2017年 (平成29年)		391,981 百万円	自動車の部分品 58,956	魚介類・同調製品 53,607	鉄鋼 47,070	1,205,794 百万円	原油・粗油 315,997	石油製品 169,918	石炭 117,255

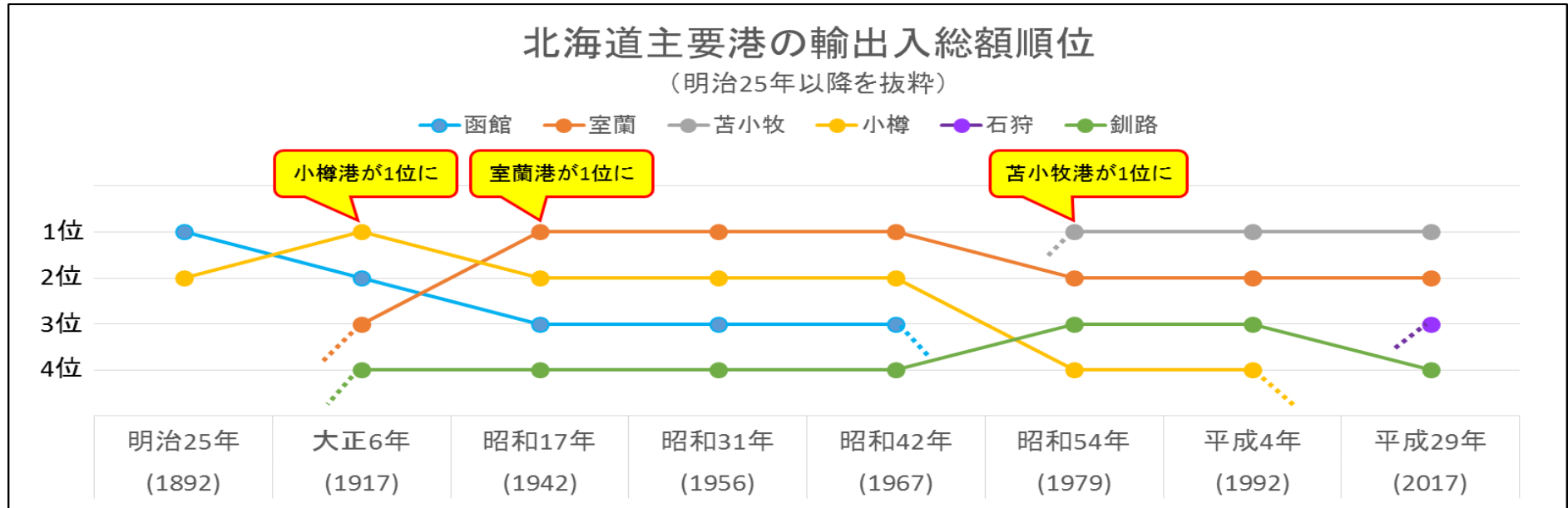
2. 北海道の輸出入総額推移グラフ







3. 北海道主要港の輸出入総額順位グラフ



4. 北海道の原油輸入単価の推移グラフ

